

メリカはフロリダ州オーランドで開催されました国際協議会に参加してまいりました。

RI会長ステファニーA・アーチックさんがおっしゃった、今年のテーマは「THE MAGIC OF ROTARY」ということでした。私は会長のテーマ演説を生でお聞きしたましたが、英語でしたので、すぐには理解ができませんでした。帰国後、日本語に翻訳された講演録をいただきまして、20回ぐらい、端から端まで読みました。私は英語の読解力は全然というのは初めから分かっておりましたが、日本語の読解力もあんまり大したことないので、困りながらも一生懸命拝見いたしました。

そして、今年度の我が2650地区のスローガンを考えて、「持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動」といたしました。幸いにして、アーチック会長のおっしゃっている内容と根本的に矛盾はしてないのかなと思っております。ロータリーが、そして2650地区が持続可能であり続けるために大切なことを7つの目標として掲げさせていただきました。

当地区に関しましては、2番から7番までの重点課題に関しては、私は何も心配しておりません。しかし、ほかの地区、あるいは今、国際ロータリー全体が抱えている最も大きな問題である、会員基盤の整備と会員増強が一番の克服すべき課題ではないかと思っております。

なぜこのような現状及び状況になってしまっているのかということに関しては、様々な要因が複雑に絡み合っておりますので、「これがこうだ。だから、乗り越えるためには、こうあらねばならない」という単純な解決策はないだろうと思っております。

最盛期、世界に130万人のロータリアンがいらっしゃって、そのときには日本に13万人のロータリアンがいらっしゃいました。10分の1が日本のロータリアンでいらしたのです。

その後、アメリカ、イギリス、オーストラリアといった、ロータリーの先進国とされてきた地域において、ロータリアンの会員数が極めてはっきりと減少いたしました。一方で、アフリカ、あるいはインドでは、非常にたくさんの方々のロータリアンに入会を迎えております。一方で激しい減少、一方で激しい増加というのがあったのであります。今現在、国際ロータリーでは全世界で120万人の会員がおり、日本のロータリアンは8万人台となっております。

我々の地区において、大和高田RC様に関しては、全然心配しておりません。90名を超える会員がいらっしゃいます。目標としては、一応お願いしたいなと思うのは、3桁になっていただいたらどうかしらと私な

どは思うわけでありますが、それをずっと目標にしていたら、何の心配もないのではないかと思います。

奈良県下には、存続自体がぎりぎりというようなクラブもなくはございません。それは本当に残念なことであります。経済がすべてを規定するとは思いませんけれども、それも一つの要因であることは間違いないかと思うます。また、今の世界を見ますと、国連の安全保障理事会の常任理事国を担う大国が堂々と侵略戦争をするような状況です。それも、最初は、2週間、もしくは1か月以内に勝って終わると言っていたのに、1年、2年、3年と長引いております。そのことを何の恥じる様子もない有り様です。あるいは、世界で最も指導的な立場であらねばならない国が自国第一主義を掲げて、これも何ら恥ずかしいとも思っておられない。このような状況の中で、我々ロータリアンが、「超我の奉仕だ。I serveだ。we serveだ」と言っても、人々の胸になかなかしみ入りにくい社会状況にあるのではないかなと思っております。

しかし、そうであればあるほど、我々がこれまでやってきたこと、そしてこれからやっていこうとすることの輝きというのは決して失せることはありません。いや、さらに輝き続けるものであると思っております。そんな時代がいつまでも続くわけはないと、私は信じております。

大和高田RCの皆様方は、奈良県中部以南におきまして、最も指導的な立場でいらっしゃると思いますので、どうぞ今までどおりの活動を続けていただき、そして会員増強に関しても、忘れることなく、こつこつ努力していただきまして、持続力のあるロータリー、そして持続可能な地域、持続可能な2650地区を目指して、引き続き頑張っていただきたいと思いますと思っております。

簡単ではございますけれども、これをもちまして、私のガバナーアドレスとさせていただきます。ありがとうございました。



2024-25 年度 第2650地区スローガン
持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable！ Learn together Act together

会	長	池	木	啓	仁	
副	会	長	中	井	謙	之
幹	事	丸	野	正	徳	
会報・資料委員長		杉	村	喜	之	

第2650地区〔1961.3.28創立〕

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp
地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第8回(通算3007回)2024年(令和6年)9月10日号

本日の例会(9月10日)

「生き直しの応援」
一般財団法人ワンネスディレクター
真篠 剛 様

次回の例会(9月17日)

小説家 第9回ポプラ社小説新人賞受賞
夏木志朋 様

9月3日の例会報告
会長の時間

本日は、第2650地区ガバナー中本勝様の公式訪問に際しまして、私たち大和高田RCのメンバー一同、心から歓迎を申し上げます。また、大変光栄に存じております。例会前の役員懇談会におきまして、種々の問題点にご教示、ご指導をいただき大変ありがとうございました。

私はクラブ概況報告書におきましても、中本ガバナー様のお言葉の一部を引用させていただきました。中本ガバナーいわく、「ロータリー活動は楽しくなければなりません。楽しくないと続きません。楽しくないと人にも勧められません」とのことですが、まさしくそのとおりであります。人は楽しいことに没頭していますと、いつの間にか時間を忘れてしまいます。奉仕すべてがそうだというわけではございませんが、少なからず自身を一生懸命その方向に向けるよう、頑張っていくことができるならば、時として幸せに感じ、覚醒する瞬間が訪れるかもしれません。

ロータリーライフを楽しむためにも、そのあたりも含めまして中本ガバナー様、本日のガバナーアドレス、よろしくお願いいたします。

幹事報告

◎第3回定例理事会のご案内

9月10日(火)11時30分～ 4階会議室

◎次週より地区別情報集会が始まります。世話人の方々には大変お世話になっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ゲスト

中本 勝様(第2650地区ガバナー)
吉田勝亮様(第2650地区第2グループガバナー補佐)
倍巖良明様(第2650地区副幹事長)

ビジター

多田 暉様(奈良県立医科大学)

誕生日祝

安田志郎会員(9月 4日)

結婚記念日祝

伊森隆敏会員(9月 9日) 中川和久会員(9月 9日)

ニコニコ箱

・本日はよろしく願いいたします。
第2650地区ガバナー 中本 勝様
第2650地区ガバナー補佐 吉田勝亮様
第2650地区副幹事長 倍巖良明様
・中本勝ガバナーをお迎えして。ようこそ大和高田RCへ。

池木啓仁会員 中井謙之会員 丸野正徳会員
村島靖一郎会員 中井隆男会員 甲村侑男会員
吉田 暁会員 寺田俊彦会員 船木克容会員
黒松 健会員 村井善治会員 脇本吉清会員
東辻英郎会員 世古千代子会員 辻 脩会員
下村敏博会員 池田定嗣会員 山下精久会員
佐藤佳雄会員 樫根正起会員 村野淳二会員
河村憲一会員 喜寿輝昌会員 松尾光至会員
高橋正典会員 吉川利幸会員 平岡雄一郎会員
牧浦 徹会員 西田陽昭会員 清水良彦会員
桑 雅宣会員 松村裕玄会員 吉川雅章会員
酒本良司会員 杉村喜之会員 中井俊之会員
當麻泰己会員 川中教正会員

・ガバナーをお迎えして。奈良県立医科大学5年生、多田暉さんを連れてきました。 竹村恵史会員
・中本勝ガバナーをお迎えして。一期一会のガバナーアドレスに期待しております。 杵村喜芳会員
・池木会長はじめスタッフの皆様、頑張ってください。

川中光教会員
・ガバナーをお迎えして。先週の堀川先生の卓話、楽しかったです。 上田麻子会員
・米寿祝を頂いて。 吉村忠雄会員
・ガバナーをお迎えして。誕生日祝を頂いて。

安田志郎会員

4つのテスト〔言行はこれに照らしてから〕

1. 真実か どうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるか どうか

ガバナーアドレス

第2650地区ガバナー 中本 勝 様
国際ロータリー第2650地区、2024－25年度ガバナーを拝命いたしました、中本勝でございます。所属は奈良RCです。本日は、朝11時過ぎから、クラブ役員の皆様と懇談会を持たせていただきました。約1時間という短い時間でございましたが、本当に楽しく、有意義に過ごせたと思っております。

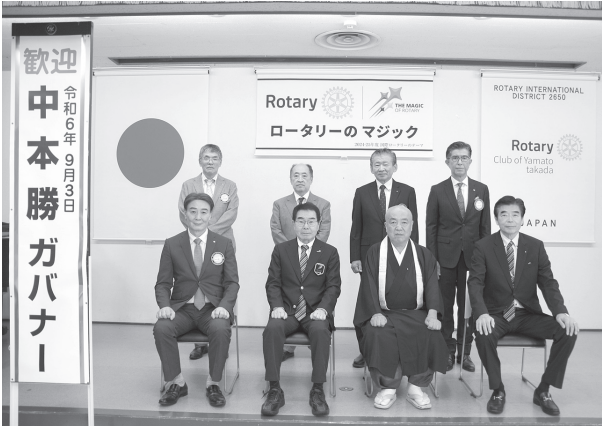
大和高田RCの現状につきまして、つぶさにご説明いただき、いろいろお話しさせていただきまして、大和高田RCは今や磐石の基礎の上に、奉仕活動を運営していただいております。私のほうからお願いするようなことは何一つございませんので、あとは自己紹介を兼ねまして、私が今の職業に就きたいきさつと、ロータリーとの関わり等について、若干お話し申し上げたいと思います。また、国際ロータリーの今年度の方針なり、あるいは今年度の我が2650地区の運営方針についてもお話しさせていただきたいなと思っております。

私は1950年2月、昭和25年2月の生まれです。いわゆる団塊の世代ということで、人数が一番たくさんおった時代です。同級生が大体250万人ぐらいいたようでございまして、戦後日本の復興と繁栄を担う希望の世代と言われておりました。

昨年度、令和5年度の我が国の新生児の出生者数が大体71万人と聞いておりますので、それと比べますと、何と3.5倍もいたということになります。

戦後日本の繁栄とともに、希望の世代と人言われ、我々自身もそのように思っておったわけですが、昨今は我が国の年金財政を破綻に陥れる元凶の世代と言われるようになり、何といえますか、時代が変われば人々の評価も変わってしまうのかと、情けない思いをいたしております。

幼いときから勉強があんまり好きではなくて、運動を一生懸命やっておりました。一つ、自慢させていただきますのは、中学3年生のときのお話です。1964年ですので、前の東京オリンピックの行われた年でございますが、中3の私は奈良県中学校ハンドボール選手権大会に出場いたしました。小さい学校でしたので、部員が7人しかおりません。ご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、ハンドボールというのは7人でするスポーツなんです。7人がスタメンで出たら、それっきり交代ありません。それで、決勝戦まで進み、優勝いたしました。こういう休憩のないスポーツですから、野球を9人でずっとやるよりもまだしんどいと思います。体育の先生が監督でしたが、優勝して、「先生、僕たちってすごいですね」と言ったら、「何言ってねん、8人いてたらおまえは出てない」と言われました。「ああ、そうか、7人しかいないおかげで僕は出してもらったんか」と、残念だったり、



また納得したりという思い出でございます。

大学は一応法学部に行き、同時に硬式庭球部に所属いたしました。朝から晩までテニスばかりやっておりました。授業には一切出してもらえず、「雨の日やったら出てもええ」ということでございました。ところが、実際ラケットを持ってテニスをするのは、午前20分、午後20分の計40分で、ほかの時間は朝9時から夕方5時までずっとボールボーイとコート整備をやらされておりました。したがいまして、ボールボーイの技術とコート整備の技術は瞬く間にプロ級になったわけですが、肝心のテニスのほうは一向にうまくななくて、本当に困ったものでありました。

我々の一学年下、高校3年生に、神戸松陰女子高校の沢松和子さんという選手がいました。彼女は高3のときに、全日本女子シングルの部で優勝いたしました。大阪鞆公園テニスコートのセンターコートでの決勝戦に勝って、彼女はチャンピオンになったわけですが、私はその試合のボールボーイしておりました。青春のすべてをかけて取り組んだテニスの唯一の栄光が、沢松和子さんのボールボーイをしたということでもあります。

2年生になって、もうちょっとテニスを練習させてもらえるかと思いましたが、驚くことに大学紛争というのが発生しまして、授業そのものがなくなりました。

1年生のときには雨の日しか出てなかったんですけども、2年になると、もう授業そのものがなくなり、また1年間ぶらぶらと勉強せずに遊んでおりました。3年になってやっと授業再開ということになりまして、我々は教養課程というのは、無試験状態で通り過ぎまして、専門課程に入ったわけです。2年間全く勉強してないわけですので、ちょっとは勉強しないといけないなと思っておりました。

しかし、テニス部のある先輩から連絡がありまして、ぜひとも俺の言うことを聞いてくれとまじめな顔でおっしゃいます。何かと思えば、とある都市銀行の就職面接を受けてほしいということでございました。先輩のたつての頼みということで仕方なく行きまして、人事担当取締役からいろいろ質問されたりしておりましたら、あらぬことか、突如私の肩をぽんとつかみまして、「我が行の未来を担うの君だ」と言われました。「ええっ」と思ってたんですけども、即合格というこ

とになりました。

何ぼ何でもこれはあまりにもおかしいやろうと、私なりに思いました。2年間何の勉強もしていない、3年になってちょっと勉強しようかと思った矢先に、そんなことで就職が決まったら、私は勉強なんかする気がなくなりますので、これはあかんだろうと。そんな話を今の学生さんに話しても、おおよそ信じてもらえないようなことで、昔は青田刈りの激しい時代でございました。

何せ、私に「俺の願いを聞いてくれ」と言った先輩は4年生で、まだそこに就職もしていないんですよ。そんな人に来年度、「おまえ、めぼしいやつを呼んでこい」と言って、引っ張ってきて、それで面接、「はい、合格」って、無茶苦茶な話です。これはあかん、お断りするしかないなと思いました。

しかし、断り方が問題でございます。「御社よりもっといい銀行に行きたい」とか、そんなことは口が裂けても言えません。どうしようかと。下手な断り方をしたら、その先輩の顔も潰すし、相手の銀行の顔も潰す。硬式庭球部の面子も潰れて、後輩に迷惑をかける。そんなふうに、いろいろと考えてしまうと、ややこしくなってきた、どないしようと思うばかりでした。

ただ、唯一円満に断れる理由がございました。それは、「申し訳ございません、司法試験を目指したいと思います」というのが、当時の法学部の学生には許されていたことであります。仕方ないからそう言いました。自分としたら、その当時、あえて茨の道を僕は進むんだなんてことを思って言ってみたわけですよ。

しかし、実際やってみますと、本当に茨の道でありました。もともと好きでもないし、不得手な道を何で選んだのかと大分後悔しました。銀行に勤めてたら、今頃は良かっただろうなと思ったわけですが、もう普通の就職はできない身の上になっておりますので、半泣きでも何でももうこの道を進むしかないということで、頑張ってやりました。そしたら、神様も哀れと思し召したのかしれませんけれども、幸運が何重にも重なりまして、やっとこさ司法試験に合格いたしました。

そして、大阪で弁護士登録して、立派な先生の下で6年間修行しました。32歳のときに奈良に移り、独立、開業いたしました。そして、翌年、33歳のときに、縁があって奈良RCに入会させていただきました。

その当時、奈良RCとしては最年少の会員でございまして、非常にかわいがってもらいました。一時、相撲部屋で「かわいがり」という言葉が言われておりましたが、それに近いかわいがり方でした。「おい、中本、出てこい」とか、「おまえ、分かっとな」とか、本当にいっぱい、あれやこれや言われまして、ロータリーのことをいろいろ教えていただきました。

「中本、おまえはロータリーは奉仕団体やと思っているやろう」と言われましたので、「はい、そう思ってます。違うんですか」と言いましたら、「違う。ロータリ

ーは奉仕する人の団体や」と。「ああ、そうか。うまいこと言うな」と思うと同時に、何となしに腑に落ちました。奉仕する人の団体だから、まずI serve、自分が自分の職業で世の中に奉仕するというのが、大前提になるんだと、そのことを忘れてはいけませんということなのでした。

ところが、I serveだけではいけませんとまた言われまして、「ええ、何や、さっきI serve言ってたん違うん」と思いましたけれども、それでは、できることが限られてきますと。「あなたは、自分の職業で世の中に奉仕すると言っても、できることは限られてるでしょう」と言われますと、なるほどと納得いたしました。そこで、「I serveとともに、みんなで奉仕する、クラブで奉仕する、we serveというのが大事なんだ。I serve、we serveはロータリーの奉仕の両輪だ、しっかり覚えておけ」と言われて、「ははあ」と聞いておったわけであります。

その頃、そうやってかわいがって教えていただいたんですけども、それは何とはなしに、もともと素直でもない自分の中にも、言われたことが自分なりにすんと腑に落ちたわけです。

奈良で独立して、弁護士として奈良のために何ができるのか考えようと思っていた矢先でございましたので、そしたら、まず自分の職業で奉仕する。そして、奈良RCに入らせてもらって、そしてクラブで皆さんと一緒に世の中に奉仕するんだということが、すんと私の胸に落ちて、これで頑張っていけばいいのではないかと思うことができました。

その当時、「ロータリーに関しては、『ノー』という返事はないんだ。『はい』か『イエス』か『喜んで』、この3つしかないんだ」と言われて、えらい怖いなと思っておったんですけども、「はい、分かりました」とか言っておきました。

そのように教えられまして30数年がたち、今から遡ること約3年前に、歴代会長が突如我が事務所にお見えになりました。「今日は、あなたが『うん』と言うまで僕たちは帰ません」とおっしゃいました。「ええっ、何のこっちゃ」と思ったんですが、続けて、「私たちも忙しいし、あなたも忙しいでしょうから、早く『うん』と言いなさい」と、こうです。帰ってほしい一心で、そのときはもう、「分かりました。分かりました」と言ったがために、本日、このような場で、皆さんの前で、訳の分からん話をいたさざるを得ない立場になってしまったわけであります。

今でも、歴代会長めと思うときは、なくもないんですが、これも仕方がないと思って、1年間、頑張っていこうかと思っている次第であります。

本年、令和6年の1月1日に能登半島で甚大な地震が発生いたしました。そして、1月2日には、羽田空港で航空機の事故がございました。幸いにして、乗客が全員助かったことは不幸中の幸いでした。

この調子では今年の日本は一体どないなるんやろうと思ひながら、1月5日、羽田空港を立ちまして、ア